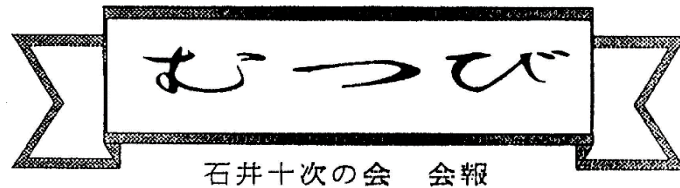


2025 年  
(令和 7 年)  
10 月 9 日



337 号

## 「社会に役立つ人間になりたい」と思った少年の日から

延岡市立北川小学校 校長 宇都宮 浩

昨年度、学校のカウンセラーとしてお世話になった西田守さんとの縁でこの原稿を書かせていただいております。

私は、昭和 42 年に高鍋町で生まれ、高鍋東小・西中・高鍋高校を卒業し、宮崎大学教育学部を経て平成 2 年に宮崎県の教員となりました。これまで、延岡市立南小・南郷村立鬼神野（きじの）小・延岡市立東海東小・延岡小・延岡市立東小・都城市立富吉小・西門川小・延岡市立南方小・椎葉村立尾向小を経て昨年度から北川小に勤務しております。県北での勤務が多く、残念ながら高鍋町や児湯郡での勤務を経験できないまま教員生活 36 年目（校長 4 年目）を過ごしております。

石井十次先生との出会いは高鍋東小での子ども時代です。当時、月の歌の一つが石井十次先生の歌でした。「村の祭りに縄の帯・・・石井十次は世界の偉人」という歌詞は今でも記憶にあり、口ずさむことができます。学年朝会の際、東小の運動場の一角で歌っていた風景が今でも思い出されます。

また、授業などで折に触れて石井十次先生の話聞いていたと思われ、「十次先生のように、いつか社会に役立つ人間になりたい」と思っていました。

ちなみに、小学校 5 年の時に図書室からメアリーちゃん人形が発見され、6 年生の時に「第 1 回東小人形祭り」が行われました。中心になったのが私たち 6 年生でした。学級ごとに神輿を作り運動場を練り歩いたのは懐かしい思い出です。当時の東小は各学年 5 学級で全校児童は 1000 人を超えていました。私は東小から西中に進んだので、高鍋の同学年は全員が同級生ということになります。

中学生の頃、町の中央公民館が建て替えられることになり、その横（南側？）に石井十次像が造られました。その像の下に設置する石を一人一つずつ、鳴野の浜への遠足で拾っていくことになりました。

西中と東中の生徒全員が拾った石を石井十次像の足下に置いたと記憶しています。その像が現存しているのか私たちが拾った石が残っているのかは分かりませんが、そのような取組を通して石井十次先生の教えを伝えてくださったのだと思います。ちなみに、新しい中央公民館のこけら落としとして NHK-FM のラジオ収録が行われ、歌手の石川秀美さんが来られました。高校生だった私は、土曜日午後の課外を抜け出して友達と見に行きました。

初めての本物の歌手のコンサート体験でした。

高鍋高校時代は、正門近くにある石碑に刻まれた「帰国途上の所感」という詩が強く印象に残っています。石井十次先生が孤児院を岡山から高鍋に移す際に読まれた詩です。「汝高鍋よ、汝は予が理想的人物を養成するにおいて、最も適當のところなり。」人物を育てるのに理想的な場所だと、ふるさと高鍋に対する強い思いに共感しました。高校2年生の時に教員になることを決意したのですが、その根底には、小学校の頃に抱いた「社会の役に立つ人間になりたい」という思いがあったのは確かです。小学校から高校まで、石井十次先生に触れる機会が多かったことはとても幸せなことだと感謝しております。

大学4年の時、教員採用試験に向けた面接の練習がありました。大学の先生から「宮崎県の偉人について話してください」という題をいただきました。ここぞとばかりに石井十次先生について熱弁し、大学の先生を驚かせたのは今でもよき思い出の一つです。

ずいぶん前に「知ってるつもり」というテレビ番組がありました。関口宏さんが司会をされ様々な偉人を分かりやすく紹介する人気番組でした。私は、ぜひ石井十次先生のことを取り上げてほしいと思い、テレビ局に手紙を送りました。その後、1992年9月に石井十次先生をテーマとした番組が放送されてとても驚きました（私は高校生の頃のことだと思い込んでいましたが、調べてみると教職に就いた後でした）。ただ、私にはテレビ局からの返事などは一切なかったので私の提案が採用されたのではないと思います。どなたかが連絡されたのでしょうか。もしかしたら伯父（岩永高德）が教育長をしていた高鍋町教育委員会の方が連絡されたのかなと思っています。その番組の中で、石井十次先生の言葉として「感動即実行」が紹介されました。この言葉に強く惹かれ、以後、私自身の座右の銘にしています。これまでに担任した子どもたちにもよく話してきました。

今、私の母校である高鍋東小学校では、西中・高鍋高校の同級生である黒木修志君が校長を務めてくれています。高鍋西小学校の山腰孝幸校長も宮崎大学の同級生で、教職を目指して切磋琢磨し今でも付き合いがある仲間の一人です。信頼できる2人の友が高鍋でがんばってくれていることをとても心強く思っています。きっと、石井十次先生の功績に触れながら「社会に役立つことの大切さ」を伝えていることでしょう（高鍋東中の宮越校長も高鍋高校・宮崎大学の先輩です）。私も、少年の日に抱いた「石井十次先生のように、社会に役に立つ人間になりたい」という気持ちを持ち続け、子どもたちのために日々努力を続けたいと思っています。

石井十次先生に関係のないこともたくさん書いてしまいました。私のふるさとへの強い思いに免じてご容赦いただけると幸いです。最後までお読みいただきありがとうございます。

人が人として生きること、そして「さようなら」の意味について

石井十次の会都城支部 小玉 忠宏

【人が人として生きる幸せとは】

私は石井十次の会に入会させて頂き、人が人として生きることの真の大切な生き方を学んでいます。現在私は永年勤めた警察官を辞して都城市の市議として市政に携わっています。その志は、社会をより良くするには治安も教育も全て政治の力が必要と思ったからです。社会の現状に目を向けると、憲法が保証する人権教育も個人を尊重しながらも家庭や地域、職場等で育む社会性を希薄化させている様に感じます。先輩や上司の言葉も上から目線やハラスメント等と抗議や訴訟に発展する今日です。自由や平等、任意等と言った権利社会も人と人のつながりを失わせ、職場や組織、或いは地域で支え合う自治公民館活動等も衰退させている様に思います。人が人として幸せに生きる社会である為には、文化として育まれる社会性を学ぶ学校教育の必要性も感じます。石井十次先生が明治期に孤児の救済や自立心を育てる教育に取り組まれた偉業。理念と活動を支える「石井十次の会」や「石井十次顕彰会」が今尚有志によって支えられ、ボランティア精神の向上や社会福祉の促進等に取り組まれていることに意義深いものを覚えます。人間は教育や環境によって育つ！ 相手を思いやる心や奉仕の心、そして、社会をたくましく生きる術も。今年の春本卒園生の一人が苦学の末、教職試験に合格され小学校の教壇に立たれました。その先生にエールを送りたいと思います。

【東日本大震災を経験して】

2011年3月11日東日本大震災が起きました。当時、新人議員として3月議会に從事中、議会事務局のテレビに映し出される妻のふるさと陸前高田市の家や人が津波に押し流される姿に驚き、家族とも連絡が取れず心ははやるばかりでした。被災地は瓦礫の山で道を塞ぎ、辿り着いたのは一週間後のこと。歴史が育んだ町並みや家族が住む家も跡形もなく。義母との再会は避難所ではなく虚しくも遺体安置所でした。母と一緒に暮らしていた義妹とは再会できず、時間を経て警察のDNA鑑定になりました。そして、被災地に届く仲間からの電話やメールに励まされ、心の支えを頂いたあの日を忘れることはありません。持つべきは仲間！人は一人では生きていけない。支え合える仲間が居てこそ希望や豊かな心が持てる。家族を失い苦難を経験した当時を想うと、石井十次先生の福祉の心に尊崇の念を抱きます。

【日本のお別れの文化「さようなら」とは】

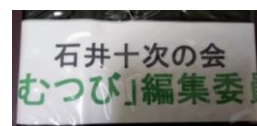
最後に、日本人は別れるときに何故「さようなら」と言って別れるか？

著書「日本の心の教育」に、さようならは永遠の別れではなく、「さようであるなら、ここでお別れするけど・・・」と別れ際に再会を誓う挨拶と著者境野勝悟先生は記しています。例え、永遠の別れであっても再会を誓う日本の挨拶には心を打たれます。それでは、志を共にする皆さんとお会い出来る日を願い「さようなら」と申しあげペンを置かせて頂きます。

## 石井十次セミナー参加雑感

標題のセミナーに編集委員仲間とともに連続参加している。  
もちろんセミナー趣旨にそった学びをしたいが故である。  
そして、もう一つの理由。それは講師の先生方に「むつび」巻頭原稿を直接依頼することである。

このことは当然のことながら事前の編集委員会で決定をしている。  
依頼文書は自ら作成するが、加えて方舟館の皆様から添付すべきモデル原稿や腕章※写真参照を準備していただく。



初対面の講師の方々であるので、お願いをするタイミングには気を遣う。  
セミナー終了後、講師の先生方が控室に戻ってこられるタイミングをここ数年は常としていたので今年も踏襲することにした。

しかし、控室を訪ねると「講師の先生方はそれぞれの部屋で休憩を取りこの後の懇談会(交流会)に備える」との児嶋草次郎理事長談。

やむなく夜の懇談会の場にて間隙について依頼するという荒業となってしまった。荒業ではあったが3人の先生方には今回も快諾をいただいた。

公益財団法人大原芸術財団 森川政典 様 2026年2月号に  
元福岡県立大学教授 田代英美 様 2026年3月号に  
元北九州YMCA 総主事 元韓国蔚山大学教授 安東邦昭 様 2026年4月号に  
田代英美先生には昨年も依頼させていただいたという勝手な気安さから研究対象まで話題として触れてしまい僭越なことをしてしまった。

夜の懇談会については昨年度の反省として「ステージでのスピーチ尽くしでは席を離れての交流もままならないので配慮を」と児嶋理事長に事前に伝えた。

そして、児嶋理事長にはしっかり対応していただいた。  
おかげで同席になった岡山から遥々おいでいただいた廣野氏や室賀氏との交流が深められた。9月末の岡山研修旅行ではお会いできるかもと期待している。

また、3つの園長先生方とも同席。いずれ原稿依頼をとの口約束ができた。実り多き石井十次セミナー参加の1日であった。

編集委員長 竹之下悟

## 《 お し ら せ 》

★新会員ご紹介(敬称略)

【小林市】甲斐 日美子 小園 裕美子【宮崎市】佐土瀬 洋美

\*ここまでの掲載者は編集等の都合により9月20日までのものとしています。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

〒884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1

社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール [yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp](mailto:yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp)

### 編集後記

●巻頭原稿は延岡市北川小学校長 宇都宮浩様に玉稿をいただきました。「十次先生のような社会に役立つ人間になりたい」の強い思いが教員への道・採用試験面接練習での熱弁・テレビ番組への要望などの行動からも熱く伝わります。

編集委員長 竹之下悟